

NARIWA MUSEUM

高梁市成羽美術館 だより

NO.41◆2025.3

編集・発行：高梁市成羽美術館
〒716-0111 岡山県高梁市成羽町下原1068-3
TEL 0866-42-4455 FAX 0866-42-4451
<https://nariwa-museum.or.jp/>



◇—————◇
高梁市成羽美術館は安藤忠雄氏設計による
新築開館30年を迎えました。
◇—————◇

「TORAJIRO」 —西洋画をもたらし、一人の画家の物語—

2024年4月13日[土]—6月30日[日]



展覧会ポスター

2024年は児島虎次郎没後95年にあたる年であり、本展は虎次郎という人物について深く掘り下げる目的で開催しました。大原美術館の西洋画を集めたことで有名な虎次郎ですが、画家としても非常に優秀であること、絵画以外の作品も多く残していること、また、人物像についてはほとんど知られていません。

そこで、まじめで才能あふれるこの日本人西洋画家を広く世間に知っていただきたい！というモットーの下、いわゆる絵画展とは少し違った手法で本展は企画されました。

たくさんの解説パネル

本展では、絵画そのものの鑑賞だけでなく、虎次郎の人生や作品制作の背景が詳しく語られるようにしまし

た。美術館というよりも博物館的手法を採用し、絵画作品さえも虎次郎の人物像を伝えるための資料、という位置づけで展示を企画したのです。一般に絵画を展示する場合、鑑賞の邪魔にならないようパネル等は目立たなくするのがセオリーです。しかし今回は、ちよつとくらい邪魔になったとしてもOKということにし、数多くの解説パネルを掲示しました。時代ごとのエピソード、人間関係、住居の地図、どんなモデルを使ったのかなど、細かな部分も解説するようにしました。

このちよつと変わった試みに、絵画をじっくり鑑賞できないという意見が出るかもしれない、と最初は気が気でなりませんでしたが、しかし意外にも好意的な意見が多く、ほつと胸をなでおろしたことを覚えていきます。

たくさんのモノ

もうひとつ、博物館的であった本展の大きな特徴は、さまざまな「物的証拠」も相当数展示したことです。虎次郎は油彩画の画家ですが、ほかにも多様な作品を残していたので、日本画や、絵付した着物、自ら焼いた茶碗なども展示しました。また、虎次郎は



会場風景

コレクターでもあったので、あわせて200点近いオリメントや東アジアの収集物も展示しました。特に初公開したイスタム圏のテキスタイルは大変好評で、中でも絵の背景に使われたフルカリという布は虎次郎の絵画に対するこだわりを表すと同時に、その美しさがひとときわお客様の目を惹きました。また、日記やノート、愛用のバイオリンなどをちよつとしたエピソードとともに展示し、虎次郎の日常や性格が伝わるよう工夫しました。

このような、美術館としては一風変わった試みとなった展覧会でしたが、来館者アンケートでは「虎次郎が画家であり、コレクターでもあるということが知れた」、「虎次郎の生涯がよく



背景に描かれた刺繍布のフルカリ



テキスタイルや虎次郎愛用品の展示

わかった」といった感想をいただき、当初の意図である虎次郎の人となりをお伝え出来たのではないかと思っております。

今後も新しい虎次郎像をお見せできるように、引き続き研究を続けてまいります。

開館30年記念 ミュージアムコンサート

2024年5月6日・11月4日



5月6日木口さんソロコンサートの様子



11月4日AKA DUOコンサートの様子

現在の高梁市成羽美術館が開館して2024年で30周年を迎えました。開館記念日である11月4日、成羽町出身で海外でも高い評価を受けている新進気鋭のピアニスト木口雄人さんと、ともにウィーンで活躍するヴァイオリニスト松岡井菜さんによるデュオ「AKA DUO(アカデュオ)」に当館で演奏をしていただくこととなりました。年初から打ち合わせを進める中で、木口さんから「ゴールデンウィークにもコンサートをしましょうか?」と嬉しいご提案がありました。

急遽決まった5月6日の木口さんのソロコンサート。広報に十分な時間が割けなかったにもかかわらず、約150人ものお客様にお集まりいただき、会場の後方にある階段や会場を見下ろす通路も木口さんの演奏を心待ちにした方々でいっぱいになりました。プログラムはムソルグスキー「展覧会の絵」などで構成され、美術館にぴったりな曲を演奏してくださいました。堂々とした伸びやかな響き、迫力に満ちたうねるような速いフレーズ、私たちの心の琴線に触れる優しい音色。木口さんの幅広い表現力に圧倒された1時間でした。

そして、11月4日のAKA DUOのコンサートでは、2回公演、合わせて約200人の来場者を迎え、5月とはまた違った魅力を見せてくださいました。松岡さんの表情豊かなヴァイオリンの音色が加わった華やかなアンサンブルは、まさに当館の新築開館30年と高梁市発足20周年を彩り祝福してくださいました。皆さんが一度は耳にしたことがあるクラシックの名曲を美しく強く奏でて会場を魅了するのはもちろん、ポーランドの作曲家マギンの「アンダンテ」といったあまり一般に馴染みのない楽曲でも、2人の技術と阿吽の呼吸によってその曲の世界にぐいぐいと引き込まれるようでした。1時間弱の短い時間ではありませんが、海外で活躍の場を広げるお2人の演奏を存分に楽しんでいただけたのではないのでしょうか。

成羽美術館を「小学校の課外授業で訪れたり、美術館の喫茶を借りて行ったピアノ教室の発表会に出たり、とても所縁の深い場所」と話してくださいました木口さん。また演奏していただけた機会を楽しみにしつつ、AKA DUOのお二人がさらに大きな舞台で輝いていくことを心より願っています。

開館30年を迎えて

高梁市成羽美術館はこの度、安藤忠雄氏設計による美術館として30年の節目を迎えました。来館されるお客様からは、「こんな田舎によくぞ素晴らしい美術館が出来ましたね」と驚きとお褒めの言葉をいただきます。

現美術館は、昭和28年に県下初の町立美術館として設立されて以来3代目の施設であり、当時の町民の方々の志と熱意には頭が下がります。これからも先人の熱い思いと努力を胸に刻みながらスタッフ一同しっかりと美術館運営に当たりたいと思います。

少子高齢化と人口減少が心配される高梁市において美術館がどういふ存在であるべきか。

真に市民に開かれた親しみやすい美術館として、特に高齢者と子供たちに眼を向けた美術館としての具体的な一歩を踏み出す年にしたいと思っています。市民の皆様をはじめ多くの方々のご支援とご協力をお願い申し上げます。

館長 澤原一志

ネコづくしだった夏

—2024年の成羽美術館の夏はネコに関するさまざまな企画を用意し、まさにネコづくしの夏となりました。

1. 写真展 岩合光昭の日本ねこ歩き

2024年7月13日〔土〕—9月23日〔月〕

総来館者数 12,434名



展覧会ポスター

動物写真家 岩合光昭氏の新作「日本ねこ歩き」展を開催しました。

NHKBSプレミアム「岩合光昭の世界ネコ歩き」は放送10周年を迎える長寿番組で、ネコファン必見の番組でもあります。そのなかで訪れた、国内15か所の写真を厳選、土地それぞれの風土を背景にした、ネコとヒトとの暮らしぶりを約150点もの写真で紹介しました。

半世紀以上も猫を撮り続けている岩合氏ならではの感性で撮影された写真は、どこかネコ目線であったり、ネコ愛があふれ出していたり。しかもその土地ならではの風景とあいまって、ネコとヒトとがこれまで織りなしてきた、長い文化の歴史も垣間見えるのです。写真の

ネコはどんな子なのか、どんなふうにも暮らしているのかな、と想像が膨らみます。見終わった後はほっこりとあたたかな気持ちになる、そんな写真展でした。

期間中は、岩合氏による講演会とサイン会も開催されましたが、猫写真界のカリスマが成羽に来られるとあって、ネコ好きが大集結。文字通りの大盛況に終わりました。

2. で〜れ〜にゃんこ！

プチ展示

岩合展を開催するにあたり、せっかくなのでネコのことを正しく理解していただければと考え、化石展示室で「ネコという動物」を科学的に紹介する小さな企画展を開催しました。ネコ科動物の進化の歴史、生物学的な特徴や野生ネコの紹介を、イエネコや野生ネコの骨格標本とレプリカを使って展示しました。また、かつて存在し、現在は絶滅してしまった化石ネコの標本もご覧いただきました。ネコ科動物は、雑食を全くしない真の肉食動物として進化し、哺乳類



会場風景

史上最も成功したハンターとされています。それなのに、現在多くの野生ネコが絶滅の危機にさらされています。ペットのネコも、捨て猫や野良猫の増加が社会問題となっています。ヒトとネコ。これから共生するために私たちは何をすべきか、そんなことを考えるきっかけになったのではないのでしょうか。

3. 岡山県立大学デザイン学部・ミュージアムグッズ共同開発プロジェクト

「で〜れ〜にゃんこ！」

プロジェクト

毎年開催している、岡山県立大学デザイン学科との共同グッズ開発ですが、今年は猫の夏ということで、化石展示室で開催された「で〜れ〜にゃんこ！」に



で〜れ〜にゃんこ！プチ展示の様子



館内の至るところに施したネコの装飾

登場したネコ科動物たちをモチーフにグッズを開発しました。

毎年10名ほどの学生が参加するこのプロジェクト、なかには無類のネコ好きの学生も。そのせいもあってか、例年にも増してユニークな作品が勢ぞろい！T

シャツやバッグの定番モノに加え、ネコクッションにネコマグカップ、そしていつものグッズ開発ではありえない、ネコ用食器もラインナップ。ガチャガチャ用の作品も制作されました。あっ驚くべきは、その売れ行きです。



台湾の留学生による作品



で〜れ〜にゃんこ！グッズ

という間に売り切れ続出で、期間中にほとんどの作品が品切れになる、なんとも嬉しい事態となったのでした。

さらに、今年は台湾の留学生3名が飛び入り参加してくれました。販売までにはごぎつませんでした。非常にクオリティの高い作品を制作していただきました。販売期間中はショップに展示したのですが、買いたい！との嬉しいお声がたくさんかかりました。

2025年のグッズ開発のテーマは、古代エジプトを予定しています。どうぞお楽しみに！

エネルギー文化・スポーツ財団助成事業 迫田岳臣

古代ガラス復元への挑戦 (日本ねこ歩き展と同時開催)

古代ガラスの復元をテーマに研究を続けてきたガラス工芸家・迫田岳臣氏。正倉院宝物や唐招提寺の国宝、大英博物館のガラス碗など、これまで復元(※)してきたものは貴重な文化財ばかり。本展では、迫田氏のこれまでの足跡を振り返り、復元を手がけたすべての品について制作秘話とともにご紹介しました。(※ここではオリジナル文化財と同じものを再現制作する意味も含みます。)

展示品の一つ「注口把手付瓶」(復元品)。リブと呼ばれる本体の縦紋様が

美しい緑色のこれは、1999年、迫田氏が古代ガラス復元の世界に踏み込んだ原点となる作品です(写真参照)。オリジナルは古代オリエントで4世紀頃に作られ、詳しい制作技法は明らかにされていません。たとえば、このリブ装飾はどうやって付けられたのか。その謎に對し、迫田氏は資料を念入りに調べあげたうえで、窯の前で実際に手を動かして何度も検証を繰り返します。100回を超える試みのなかでようやく確かな手ごたえをつかみ、オリジナルに近いリブを施した品が再現できました。その一つが皆様に観ていただいた品というわけです。

それから四半世紀。研究者やガラス工芸関係者に絶対の信頼を寄せられながら挑んだ復元は11件におよび、一つ一つに探求のストーリーが秘められています。先ほどのリブ装飾もそうですが、ガラスの微妙な色合いや気泡の具合まで忠実に再現しようとする長い道のり。復元品とあわせて展示した、使い込まれた道具や試作品の数々は、それを語る



《注口把手付瓶》復元品

重要な脇役として努力の一端を垣間見せてくれました。

現代の科学技術を使えば似たような品は簡単に作れるかもしれませんが。しかし、迫田氏の復元が一線を画すのは、当時の使われていた材料や技法を追求し、徹底的な調査と確かな技術をもって途方もない試行錯誤を繰り返しているからにほかなりません。そこには気の遠くなるような努力と古代ガラスへの並外れた情熱があるのには言うまでもなく、古代職人が歩んだ道を探り当てるこの復元は、迫田氏でなければ成し遂げられない偉業だと思っております。昨夏、迫田氏の功績を辿る展覧会が成羽美術館で開催できたことを改めて光栄に感じて



ギャラリートークにて制作秘話を語る迫田氏

日本洋画130年 珠玉の名品と児島虎次郎

2024年10月12日[土]—12月15日[日]



展覧会ポスター

この展覧会は、児島虎次郎没後95年と美術館開館30年を記念した企画として開催されました。日本の洋画史130年のなかで近代洋画史に名を遺す作家の名品とともに、当館所蔵の児島虎次郎の代表作を一堂に展示する内容です。

幕末から明治にかけて活躍した日本の洋画家高橋由一の《鮭図》には、多くの方が「初めて本物を観ました!」と感激の声を上げて喜ばれていました。また天折の天才画家岸田劉生や佐伯祐三の、明治末から大正時代の激動の時代に翻弄されながらも懸命に自らの美の世界を求める絵画の前にはじつと佇む方の姿が散見されました。

我国の近代彫刻の扉を開いたと言われる荻原礫山のブロンズ《女》は、30歳という短い生涯の最後の作品(絶作)でありまた代表作で、その生涯に思いを馳

せると感激の淵に引き込まれざるを得ませんでした。

東京美術学校時代の同期卒業生であった青木繁と熊谷守一、そして児島虎次郎の三人による絵画。天才といわれながら薄幸にして28歳で失意のもとに亡くなった青木に対し、97歳という長寿を生きクマガイ・スタイルともいうべき平明な美の世界を確立した熊谷。そして、47歳という画業の半ばで亡くなりしたものの憧れのヨーロッパに留学を果たし、後進の画学生たちのために西洋名画を蒐集した児島虎次郎。この三人の生涯を思う時、画家という芸術家の人生の厳しさを思います。

別室の虎次郎絵画については、初期から晩年までの代表作を順次丁寧な解説文と共に展示して「大変分かりやすかった」と好評のお声をいただきました。また児島虎次郎の親友 太田喜二郎や吉田苞など、虎次郎に関係する画家の成羽美術館所蔵作品をこの機会に併せて展示しました。日頃展示する機会の少ないこれらの作品を今後は出来るだけご覧いただけるようにしたいと思います。

会期中には、倉敷芸術科学大学教授の松岡智子先生による記念講演会を開催し、虎次郎絵画愛好家の方々を中心



会場風景

に多数の方が熱心に耳を傾けられました。「児島虎次郎の生涯と画業」、「児島虎次郎の美術品収集活動」について画像とともに丁寧に解説され、虎次郎が最後まで求めたものは「東洋と西洋の交差」である、と熱心にご講演いただきました。現在の世界状況を見ると、児島虎次郎の偉大さと共に深く考えさせられるものがあります。

またその他にも11月4日の開館記念日にはピアニスト木口雄人さんとヴァイオリニスト松岡井菜さんによるコンサートを開催し、展覧会に花を添えて下さいました。展覧会や関連イベント開催に際してご協力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。



松岡智子氏による記念講演会



会場風景

成羽美術館の環境を 守る会活動報告

2024年度も美術館サポート組織「成羽美術館の環境を守る会」の皆さんを中心に館周辺の清掃作業を7月と10月に行いました。HPやSNSなどでも参加を呼びかけ、7月は約70名、10月は約60名の方にご協力いただきました。暑い中、草取りや植木の剪定、池の掃除に汗を流していただき本当にありがとうございます！



清掃作業の様子

児島虎次郎を偲ぶ 絵画コンクール

2025年2月1日(土)〜3月2日(日)

2024年度は市内小中学校20校から1,035点の応募がありました。厳正な審査の結果、各学年から最優秀の「児島賞」、それに次ぐ「渡辺賞」など計186点が選出。今年度も地域の風景や生き物、学校行事の様子など日常生活を描いた作品が集まりました。今年度の児島賞・渡辺賞受賞者は次の通りです。(敬称略)

児島賞

杖子瑛愛(中井小1年)、森口和花(落合小2年)、村岡快政(川面小3年)、木口悠愛(玉川小4年)、原田珠里(富家小5年)、池田聖矢(高梁小6年)、川上琴末(成羽中1年)、土屋友菜(成羽中2年)、山本なつ美(高梁中3年)

渡辺賞

三村未葉(宇治小1年)、小坂伶弥(落合小2年)、大河宗平(高梁小3年)、横田海青(成羽小4年)、梅崎由愛(玉川小5年)、河原龍牙(高梁小6年)、新山若菜(高梁北中1年)、川上花那(川上中2年)、廣金福美(成羽中3年)



成羽中学校2年
土屋友菜さんの作品
『おなかすいた』

市民ギャラリーの活動

成羽を中心に活動する美術・工芸グループによる作品展、市民ギャラリー。2024年度には、5つの作品展が開催されました。

■なりわ工芸品同好会作品展

恐竜モチーフの作品が加わり迫力が増しました。一日限定で、ものづくりワークショップも行いました。

■墨遊会作品展

繊細さや躍動感あふれる筆づかいの作品が約40点集まりました。

■書道+機織教室作品展

漢字と仮名の熟練した技巧を感じさせ



なりわ工芸品同好会の作品

せる書道作品、バッグやクッションなど日常使いしたくなる機織り作品が合わせて並びました。

■ブロッサム絵画展

大作揃いの約50点。風景や人物などモチーフはバラエティー豊か。

■吹屋ベンガラ焼き「炎の会」作陶展

土と手仕事のぬくもりが感じられる器やオブジェなどの陶芸作品が約100点並びました。

市民ギャラリーは美術館1階の多目的展示室にて観覧無料で開催します。開催予定の作品展については美術館ホームページをご確認ください。

美術館の最新情報は
こちらからご確認ください。

Instagram



X



HP





開館30年記念 高梁市成羽美術館 展覧会メモリアル

開館30年を迎えた高梁市成羽美術館。当館では毎年様々な展覧会を行っています。今回は開館30年を記念して、過去に開催された展覧会の中でも、特に入館者数の多かったベスト10をご紹介します！

堂々の1位
来場者は約23000人



「近代日本洋画の巨匠 黒田清輝展」(1998)



「ティラノが成羽に やってきた!」(2017)



「無限の網 草間彌生の 世界」(2016)



「にんげんだもの 相田みつを展」(2017)



「篠山紀信展 写真力」 (2013)



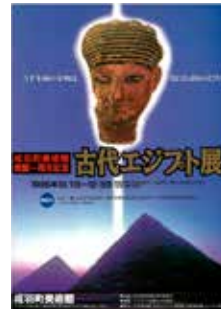
「写真展 岩合光昭の 日本ねこ歩き」(2024)



「岩合光昭 写真展 地球のたからもの」 (2010)



「追悼特別展 高倉健」 (2018)



「古代エジプト展」 (1995)



「世界の道しるべ ヤバイ現代美術 タグチ アートコレクション展」 (2023)

2025年秋には 第2回を開催!



謝辞

高梁市成羽美術館は安藤忠雄氏設計による新築開館30年を迎えました。これまで美術館の運営に多大なご支援をいただいた企業・団体・個人の皆さまに心から感謝申し上げます。また、都合によりお名前の掲載を差し控えさせていただいた方々にも厚く御礼申し上げます。

アート印刷株式会社
株式会社荒木組
イーグル工業株式会社
一色株式会社
株式会社インパムシール
大東建設株式会社
おかやま信用金庫
岡山トヨタ自動車株式会社
株式会社カイトックエンタープライズ
学校法人貝畑学園
株式会社吉備ケーブルテレビ
吉備システム株式会社
KOBETONぼ玉ミュージアム
株式会社佐野組

住友電工焼結合金株式会社
株式会社タイガーチヨダ
株式会社中国銀行
株式会社天満屋
株式会社トマト銀行 成羽支店
中村建設株式会社
野田金属工業株式会社
備北信用金庫
ホーコス株式会社
株式会社本多組
有限会社三宅工務店
有限会社みやもと
龍玄院 美星分院
(敬称略、五十音順)

高梁市成羽美術館 ふるさと納税返礼品

ふるさと納税で高梁市へ寄付いただいた方へ成羽美術館からの返礼品をご用意しております。

◆「年間観覧券」(ご本人と同伴1名様)+特典「喫茶ラ・ミュージズ」のドリンクチケット5枚



詳細は「成羽美術館 ふるさと納税」でご検索ください。